

文庫あれこれ◆寒くなりました!ねえ。夕べ寄るところがあつて城ヶ崎に電車から降りたとき、あつ、これが木枯らしかしらと思ひました。◆みなさんは風邪ひいてませんか? 私は、数日前から喉にきて、今は鼻です。でも熱はありません。めったにひかないのに。◆文庫がはじまった当初、お話を聴ききてくださつて、暫くご無沙汰だった「ひとひら」(自作人形のお店)さんがお店を開けているからと、スタッフのNさんが誘つてくださつて。すべて手作りというお人形のお顔もかわいらしく(お年よりはそれなりに年輪を経たよいお顔で)、ぜひみなさんにも一覧をおすすめです。文庫には「二人の天使」を、ヴァイオリンを習い始めた孫娘にはヴァイオリンを弾く少女を手に入れました。◆今年はなぜか、夫さんとの旅がつづきまして、青森・津軽に行ってきました。名所旧跡のすきでない夫は地物のお魚とお酒でご機嫌で、五所川原と浅虫温泉もよいお湯でした。やっと存続している津軽鉄道の名物・ストーブ列車にのつて、(同じ列車の人は太宰の記念館に行っている間、)終点の津軽中里の野っばらにある博物館でこれが意外に楽しく、なかなか見事で何だか子どもに帰つてその地の歴史を体験しました。◆皆様、今年も文庫をご利用くださり有難うございました。次の一年が日本中で、こんなふうにはじまりますよう。

◆おめでと。おめでとがんです。おめでとござりすた。おめでとうがんした。おめでとうござんす。おめでとえねえ。おめでとうごいす。おめでとござんす。おめでとござんした。めでたかつたね。おめでとうございす。おめでとございす。おめでとうさん。おめでとうはんです。おめでとうござえんす。おめでたかこんで。おめでとござんする。めでとうがあつたじゃえか。(川崎洋作「祝辞」より)◆その前に文庫は明日、クリスマス会です。(西村)



津軽鉄道・ストーブ列車

❁ウサギの年を締めくくる催し物❁

★クリスマスお楽しみ・おはなし会
12月18日 午前10:30~11:45
1部 おはなし会
2部 お楽しみ会・プレゼント交換

※大きい方もプレゼント用意してぜひ子どもたちとクリスマスを楽しみましょう!
そうでない方は、できましたら、日曜は午後からおいでください。ホールは賑わつて足の踏み場がありませんので。

☆プレゼントは300円程度をお持ちください。

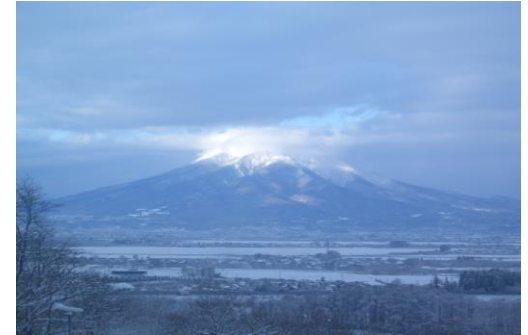
❁❁今後の開館スケジュール❁❁

- ◆新年1月は変則21日(土)、22日(日)
 - ◆2月は通常18日(土)、19日(日)
 - ◆3月は変則24日(土)、25日(日)
 - ◆4月は通常14日(土)、15日(日)
 - ◆5月は変則16日(水)~20日(日)開館
 - ◆6月は通常16日(土)、17日(日)
 - ◆7月は通常14日(土)、15日(日)
 - ☆15日は夕から、海の日のおはなし会☆
海の日16日(月)は、開館記念日
午前10:30~11:45
♥子どものためのおはなし会♥
 - ◆8月は、15日(水)~19日(日)
❁夏休みロングオープン❁
- 《楽しんで読み聞かせ・頑張つておはなし》
おはなし・沙羅の勉強会は
毎月第3土曜 11:00~13:00

連絡先: 沙羅の樹文庫 話 0557-51-3737

伊豆高原の暮らしの中に生まれる身近な喜びをお伝えするコーナーを始めました。
身近な楽しいホット原稿、お待ちしております。
atsuko@big.or.jp 又は 03-3709-7840FAX まで

沙羅の樹文庫



青森・五所川原からみた・岩木山

転居通知

六角の
結晶を
痛めず
上手に
舞い降りて
雪だるまの
右頬に
落ち着きました
では——



伊豆高原 たより No.2

富戸の海岸近くにある「聚光院」というお寺をご存知ですか? 正式には龍寶山 大徳寺 聚光院 伊東別院というそうです。かの有名な京都大徳寺の伊東出張所(?)です!

大徳寺といえば、三門の楼閣内に自身の木造を安置したことにより秀吉の逆鱗に触れ、遂には切腹させられた千利休ゆかりのお寺としても有名です。その



千住博画の襖の前で

新しく入った子どもの本

えほん・読み物：

『ウラバン・オコサ』(谷川晃一作 童心社)※今度みんなで数遊びをしましょう。

『紳士とオバケ氏』(たかどのほうこ作 飯野和好絵 フレーベル館) ※以上 2冊はすでに版を重ねている本ですが、文庫にないことに気づき新たにいれました。

『ここがわたしのおうちです』(アイリーン・スピネリ文 マット・フェラン絵 渋谷弘子訳 さえら書房) 『パパはバードマン』(ディヴィッド・アーモンド作 ポリー・ダンバー絵 金原瑞人訳 フレーベル館) 『ウィッシュ』(フェリーチェ・アリーナ作 横山和江訳 講談社) 『十方暮の町』(沢村鐵【著】 角川書店) 『僕は、そして僕たちはどう生きるか』(梨木香歩著 理論社) ※以上 5冊ピカピカの今年下旬発行の新刊です。問題作ばかり。子どもに読んでほしいけど、大人にも読み応えあります！

新しく入った大人の本

フィクション：『蝸の声』(古井由吉著 講談 11) 『持ち重りする薔薇の花』(丸谷才一著 新潮社 11) 『螢の航跡』(帚木蓬生著 新潮社 11) 『山本周五郎戦中日記』(山本周五郎著 角川春樹事務所 11) 『真田三代』(火坂雅志著 NHK 出版 11) 『黒南風』(伊藤潤著 PHP 研究所 11)

ノンフィクション：『小澤征爾さんと、音楽について話をする』(小澤征爾、村上春樹対談 新潮社 11) 『呪いの時代』(内田樹著 新潮社 11) 『ぐずぐずの理由』(鷺田清一著 角川書店 11)

新書：『本への扉』(宮崎駿著 岩波新書 11)

文庫：『日本人の戦争—作家の日記を読む』(ドナルド・キーン著 文春文庫 11) 『お早く御乗車ねがいます』(阿川弘之著 中交文庫 11) 『九月が永遠に続けば』(沼田まほかる著 新潮

立てたお抹茶をすすりながら、おん年 80 幾つの寛海和尚さんのお話に聞き入り、あっという間の半日でした。

市民茶会もこれから第 2 回、3 回と続くそうですし、お寺を会場とした各種有料イベントもいろいろあるそうですので、何かの機会に是非一度拝観されることをお勧めします。

「お金は出さないけれど汗は出す!」とおっしゃる方、次回清掃奉仕は 2 月 1 日午前中の予定です。お茶や和

ある日の学校で・・・

11 月の末、授業公開の日、二年生 3 クラスに『きつねにようぼう』(長谷川摂子再話 片山健絵 福音館書店)と『子うさぎましろのお話』(佐々木たづ作 三好碩也画 ポプラ社)をしました。両方ともずっと読み継がれている絵本ですが、このときは、『きつね』は語りで、『子うさぎ』は読み聞かせにしました。とても口の乗りやすい擬態語と子守唄のようなうたが入っていて、子どもたちは気に入ったようでした。狐のおかあさんが裏山の椿のあまりの美しさに正体を現してしまうのですが、本当に片山さんの椿が見事で、おはなしのあと、子ども達に絵を見せてその見事さゆえの狐の気持ちを分かち合いました。『子うさぎ』の絵はとても地味な線画なのですが、雪の積もる北国を彷彿させてくれます。城ヶ崎にお住まいになってなくなられた三好さんのアトリエは 5 月のアートフェスティバルにお庭ごとすばらしい絵の世界に変わります。あるクラスでちょっと、2 箇所ほどつかえましたら、せっかく楽しんでるのにと厳しい表情が。子どもは正直で敏く、ごまかしは効きません。練習を積んで臨まねばと後悔しきり。